

わが国大学におけるキャリア教育の現状と動向
—中部、関西、九州の代表的9大学に見る事例研究—

那須 幸雄

The State and Prospect of Career Education in Japanese Universities
—Case Studies in the Typical Nine Universities Located in Chubu,
Kansai, and Kyushu Regions—

Yukio NASU

Abstract

1. Outline of Interview Survey
2. Requirements in Career Education
 - 2 - 1. What is Career Education?
 - 2 - 2. Tasks in Higher Educations and Career Education Involved
3. Career Education in Research
 - 3 - 1. Career Center and Career Lectures in National University Incorporations
 - 3 - 2. Career Center and Career Lectures in Private and Municipal Universities
4. Conclusion

Prof. Nasu, Faculty of International Studies, has visited nine universities' career professionals and/or career/recruit section staffs. These universities are located in Chubu, Kansai and Kyushu regions. The subject of this paper is to study how to develop and apply career education in universities and state the modus operandi of introducing new education systems.

1 インタビュー調査の要旨

本調査はインタビューによって実施された。大学の選択は、キャリアセンター乃至それに近い組織を備える大学を選んだが、出張期間の都合もあり、かなり随意となっている。

- ・調査時期： 2004年3月22日（月）－25日（木）
- ・訪問先： （国立大学） 名古屋大学、広島大学、九州大学
（私立大学） 中部大学、龍谷大学、広島修道大学、立命館大学、福岡大学
（市立大学） 広島市立大学
- ・調査内容： キャリア教育の内容、教育組織、カリキュラム上の対応策、教育支援策

本調査は年度末に実施されたが、国立大学の国立大学法人への転換の直前に当たり、また私立大学も新しいキャリア教育制度を導入する年度替りの時期でもあった。そうしたことで、意味ある調査研究ができたものとする。

2 キャリア教育の必要性

2-1 キャリア教育とは

大学など高等教育の改革が論じられるようになってから久しいが、ここにきて特にキャリア教育の重要性が主張されている。

「キャリア」の概念は様々なものがあり、職業上の足跡や実績（個人が経験する組織内の職業内容、地位の変遷）、或いは職業人生・生涯職業人生・仕事を通じての自己実現といった意味がある。これらを通して言えることは、キャリアとは「生き方」と「働き方」のセットである、ということで、それをいかに結びつけて仕事や職業を人格として表わすか、ということであろう。

では大学生においては、この職業キャリアは、どんな問題点があるのか。大学での生活へのリテラシーの欠如、本意（本気で物事に取り組む気持ち）の欠如、学習習慣の欠如、社会経験の欠如、などが問題になるであろう。このような課題を満たしている学生は多いであろうが、一方ではそうでない学生も増えているのも現実である。

これらの問題を解決し、良き大学生活を送ってもらうためには、キャリア教育が必要となる。即ち、生き方と働き方をセットにして、大学の早い段階（1、2年生）からその学生が大学生活に馴染み、大学サービスの活用を行ない、その学生が持つ潜在的な能力に目覚め、自己啓発できるように、1年次の段階からキャリア教育を導入することが求められている。それによって、学生における大学1年次の空白期間、4年次になってからの慌てての就職活動、大学卒業後のフリーターの増大、といった問題を解決し、学生が経済・社会の時代の動きに対応してゆけるよう、導くことができる。

大学での「キャリア開発」が求められている背景としては、雇用不安感が高まり、仕事能力が求められていること、従来の人材育成システムの問題点が多いこと、があげられる。失業率の高さに示される雇用環境の厳しさ、終身雇用体制の崩壊、企業主導による能力開発の終焉（個人のキャリア開発努力の必要性）など、これまでの雇用体系が変化して、仕事と能力の関係を中心とした新しいシステムが築かれようとしている。「企業の枠を超えた仕事の共通基準」、「仕事による人の配置」、「能力の時価評価」、「人材の流動化」、「契約雇用の浸透」など、キャリア教育→キャリア開発を基点にした発想が求められている。

2-2 高等教育の課題とキャリア教育

大学など高等教育の課題と、その中におけるキャリア教育の必要性の位置付けを考えてみたい。

大学の現状は「ユニバーサル化」（かつてのエリート教育から受講生の年齢・職種を超えた、時間・空間の制約なく、学べる段階）しており、多様な教育需要に柔軟かつ迅速に対応することが求められている。そのためには、教育設備や教員の充実だけではなく、学生の入学水準、選抜方法、カリキュラム、カウンセリング、教授法や教育の質の評価までを設定し、実行することが必要となる。こうした課題に同時に対応するには、大学にとって、絶えざる改革と工夫が求められる。国立大学も法人化によって、大学の自主性、自立性が拡大し、教育研究組織の編成・教職員配置等も柔軟化できる。私立大学は、さらにユニークな教育体系や教育支援活動を導入できるであろう。

大学はまた、中等教育との接続の改善、産業社会との相関システムの構築にも追われている。中等教育との接続においては、高大連携などリンケージ、大学におけるリメディアル（再方向付け）教育、入試の自己推薦など、後期中等教育との接続の必要性を意味している。後期中等教育における教育の多様性と高等教育（大学など）での多様性をいかにリンクさせるか、への答えを求めて、すでに高校生徒の大学レベル教育履修機会の提供、大学入学者の履修暦等の多様化に対応した大学教育への円滑導入、入学者選抜方法の改善による希望者の多面的な能力・適性評価などが実施されてきている。各大学の入学センター設立などは、この線に沿っている。また大学教育への馴れを作り、自分の将来性を見据えるという意味では、キャリア教育が重要な位置を占める。

産業社会との相関システムについては、キャリア教育は重要な意味を持つ。いかに自分の適性や潜在能力に開眼し、自らを方向付けてゆけるように導くか、ということが大学で着目され、大学1年次から学生の啓発が行なわれるキャリアセンター設立が注目されている。それは各種の資格取得への志向と関係があり、大卒後の就職によって能力・成果主義経営、キャリア志向社会にいかに対応するか、という問題にもつながっている。インターンシップ、ボランティア教育、教職課程における教育実習・介護等体験など、大学生が学外で社会・経済とのつながりに目覚める教育制度が導入されている。一方では、社会人の大学学習、大学＝地域企業交流、大学の先端技術公開、大学教員・学生による起業（ベンチャービジネス）など、社会・産業とのつながりを高め、異色な大学のカラーを生み出そうとすることも注目されている。

3 調査におけるキャリア教育

今回調査した各大学において、キャリア教育にあたる機関（キャリアセンターなど）、特色あるキャリア教育科目、キャリア支援活動を設けている事例を国立大学、私立・市立大学に分けて見ることとしたい。国立大学は、4月からの国立大学法人移行を控えて、大きな機構改革を打ち出している事例が目立った。なお以下の各大学の叙述は、順不同である。

3-1 キャリアセンターとキャリア科目（国立大学法人）

(1) 広島大学

国立大学法人で大学のキャリア教育に最も先行していると言われるのは、筑波大学、広島大学である。教員と職員を一体化したキャリア組織を作っているのが、特徴である。

広島大学では、元々厚生課で扱っていた就職関連の業務を、就職支援センターとして4年前に作り、'04年度から「進路支援機能」を持つ「キャリアセンター」に改めた（センターの機能は表1を参照）。国立大学法人への移行のための大学経営長期計画に基づいて、キャリアセンター、入学センターを発足させている。教務課の行なっていたインターンシップも、'04年度からキャリアセンターに移管したのである。

広島大学ではキャリアセンター/キャリアサービスセンター/キャリアサポートセンターを備える国内外の大学を訪問調査して、センターには事務官だけでなく専属の教員を置くのが目立った特徴であるのを見出した。そこで、センター任命の教員を作って学部の壁を越えたキャリア教育を行なおうとしている。

表1 広島大学のキャリアセンターにおける機能と業務内容

機能		業務内容	新規開講・業務	
大項目	中項目			
進路支援	進路指導	職業意識啓発	キャリアガイダンス 教養ゼミ出前講義	
		キャリア教育	「職業選択と自己実現」	
			「インターンシップの実践と職業観」	新規開講
			「キャリア形成の理論と実際」	
	キャリア形成支援プログラムの作成	キャリア形成に役立つ授業科目の再編成	新規業務（教育室会議と連携）	
	進学支援	他大学院募集要項の収集・提供	新規業務	
	キャリア支援	インターンシップのコーディネート	大学独自のインターンシップ 中国地域インターンシップ 推進協議会の運営	新規業務（学生総合支援センター会議と連携）
アルバイトの斡旋		アルバイト情報の受付・提供 家庭教師の講習会の開催	新規業務（生協、内外学生センターと連携）	
課外講座の開講		公務員試験対策学内講座 各種資格取得講座	新規業務（生協と連携）	
就職支援	就職指導	就職ガイダンス・セミナーの開催	就職活動基本ガイダンス 就職活動実践ガイダンス 部局独自の就職ガイダンスの開催支援 業界・企業セミナー	
		キャリア相談	キャリアカウンセリング 進路相談 就職相談 自己分析指導 エントリーシートの書き方指導 面接指導	
		就職指導研修会	教職員の就職指導研修会	
	就職情報	市場開拓	企業訪問 企業情報の収集	
		就職指導マニュアル・広報誌等の作成	「就職の手引」 「就職活動の進め方」 「求人のための広島大学紹介」 キャリアセンターのパンフレットの作成	
		就職関係情報の提供	センターニュースの発行 センターのホームページの更新	
		もみじ（就職システム）の管理	企業情報の入力 求人情報の収集 求人データの入力 進路希望・進路決定入力指導	

機 能			業務内容	新規開講・業務
大項目	中項目	小項目		
就職支援 (続)	就職情報 (続)	就職内定状況調査	文部科学省 (学校基本統計調査) 文部科学省 (抽出調査) ハローワークへの調査報告	
		OB・OG情報の管理	卒業生情報管理 本学卒業生による就職支援体制の確立	同窓会と連携
		その他	国立大学就職問題連絡協議会等他機関との連絡調整	

センター長は教員で、教授（センター長）1名、助教授または講師1名（公募中）がセンターに所属し、センタースタッフ11名（4人増）で業務を行なう。センター所属の教授は、センター長兼任期間中は学部所属ではないが、正課の科目の教育を行ない、それは各学部の科目として単位が与えられる。ただ助教授（または講師）はインターンシップを主に担当する予定である。

キャリアセンターでは4年間を通じて進路・職業選択を考えるという思考の下に、「1年次から活用できる進路・職業選択支援」と「3年次からの就職活動支援」に分けて業務を行なう。前者の「進路・職業選択支援」は、図1のようにキャリアガイダンス、教養ゼミ出前講義、講座選択支援、正課内・外キャリア支援が含まれている。またキャリアカウンセリング、進路相談、就職相談などは、学年に関わりなく受けることができる。早期に進路を考え、進路に合った科目を選択できると、より充実した学習ができると考えている。これらはセンターの支援活動であるが、授業科目も改革される。

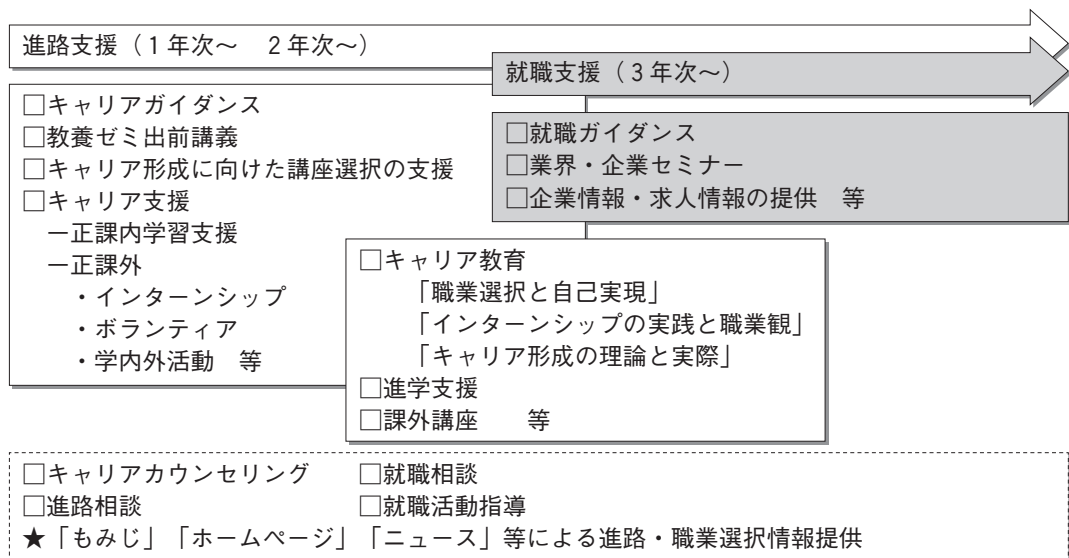


図1 広島大学の低年次からの進路・就職支援プログラム
－「キャリアビジョンに向かって進路・職業選択ができる」学生の育成－

それは2年生（第3・4 Semester）から受講できる総合科目であり、「職業選択と自己実現」、「ベンチャービジネス論」、「現代経済を考える」、「未来型食品の創製」等のビジネス関連から、「現代ボランティア論」、「ジェンダー論」等、広く社会・環境・人間行動を考える科目が配置されている。中でも教養的教育科目「職業選択と自己実現 A・B」（各2単位）は、学生の生き方・進路・職業選択を考えるための科目であり、社会／企業の変革・期待する人間像を理解する、キャリアデザインや自己実現のシナリオに向けての自己理解、生き方や進路・職業選択、論理的思考力・自己表現力などの内容が盛り込まれている。前期2単位（講義中心）、後期2単位（6回分はOB招聘など実践演習の内容）となっている。

1年生には卒業後の進路を考えさせるキャリアガイダンスを行なっている。これは4年前から就職支援センターで行なってきた教養ゼミを継承するものである。

インターネットや本での業界研究に偏りがちな現状を反省し、低学年から就職について考え、企業の現場に触れるような活動が目指されている。また、インターンシップが教務課の担当であったという点も、注目される。

インターンシップは、関西地区インターンシップ協議会を中心に、3年生対象に2単位で行なわれてきたが、今後2年生対象を拡充する予定である。

（2）名古屋大学

名古屋大学においては、本部の機構として「学生総合相談センター」を持っており、学部は本部に就職の面倒をすべて任せている。ここには助手の枠で採用されたキャリアアドバイザー（民間企業出身）がおり、学生との面談をしている。就職相談に加えて、心理相談を組み込んで行なう。また企業人を招いての講演なども実施している。

次に、学部のキャリア講義としては、教育学部では「社会教育学演習Ⅰ（副題：社会人との対話によるキャリア形成論）」、「生涯教育環境学講義」などが行なわれている。「社会教育学演習Ⅰ」は、オムニバス方式であり、「仕事とは何か」をテーマとして、常勤3名、社会人2名により講義が行なわれる。学生との対話型の授業を目指している。これらとは別に'02年度から12名を単位とする1年生の、基本教養、基礎学力を養成する新入生ゼミナールが設けられている。

またインターンシップ関係では、「技術教育学講義（インターンシップ事前準備）」、「キャリア教育実習—インターンシップ—」がある。大学全体のインターンシップ委員会、学部ごとのインターンシップ委員会があり、インターンシップの実施を管轄している。

学生総合相談センターのもう1つの仕事は、学生主体の就職支援サークルを援助することで、学生主体でOBの講演、企業人の講義招聘を行なっている。

大学の厚生課では、1人の専属職員が「就職セミナー」を年5回、企画・開催するとともに「企業研究セミナー」も企画・開催している。厚生課には就職関連の「資料センター」も設けられている。

（3）九州大学

九州大学では、「学務部就職支援室」が'03年10月に設置され、5人のスタッフを持つ。室員として、教員を数名兼務させることを検討している。そこで実施されている就職支援は、表2の通りである。

インターンシップもこの支援室において担当されており、3年前から開始された。まだ単位化されていない試行段階にある。インターンシップの履修者は全学で20-30名くらいである。工学部での会社実習は単位化されており、別である。福岡県インターンシップ推進協議会と提携して進める予定である。

就職支援活動には、「就職ガイダンス」でOBの体験談を講演してもらうものもあり、在学生のOB

表 2 九州大学における就職支援一覧

月	就職ガイダンス	就職支援基礎セミナー	企業セミナー	就職フェア	インターンシップ	就職情報室	就職相談	就職関係会議・協議会等
4月							毎週水曜日	就職関係会議・協議会等 大学等就職指導担当者・事業所との懇談会(福岡県雇用対策協会) 全国就職指導ガイダンス(春季)(文科省、就職問題懇談会、内外学生センター)
5月								国家公務員の採用試験・採用情報等に関する懇談会(人事院)
6月								福岡地区大学・短大就職問題連絡協議会
7月	学部3年生・修士1年生のための就職ガイダンス 九大就職支援行事・就職相談等説明 職務適性テスト (538名受験)							
8月					夏季インターンシップ実施 (実施者:20名)			
9月				未定者対象就職フェア 16日 (企業:7社 学生:延36名参加)	福岡インターンシップ 推進協議会 (大学、産業界、行政機関、経済団体などで構成)			九州地区国立大学等就職指導担当者職員研修会
10月	(1)キャリアアプラン、就職戦線の予測と活動対策(290名参加) (2)企業研究の仕方(ネットの活用)(480名参加) (3)履歴書の書き方、自己分析・実践的就活講座(350名参加)		九大HPへ案内掲載 各企業へメールで案内	17日 (企業:8社 学生:延61名参加)		○求人票・企業概要等展示 ○就職情報誌 ○パソコン13台 ○ビデオ1台 その他資料等々		国家公務員の採用試験・採用情報等に関する懇談会(人事院) 就職指導セミナー (就職情報関連企業) 随時
11月	「公務員への就職がブラス」(1)~(3) (1)国家職務内容、採用制度概要(160名参加) (2)地方職務内容、採用制度概要(170名参加) (3)国家1種合格者(卒業生)体験談	「実践的就職活動のポイント」 全5回(各回定員30名→希望者多数により90名に増)	エントリー開始 (各企業へのパスワードの配布、参加受付)					全国就職指導ガイダンス(秋季)(文科省、就職問題懇談会、内外学生センター) インターンシップ推進全国フォーラム(文科省)
12月	「就職活動体験説明会」 文・教・理・農4年生 「会社訪問・面接の分析」 会社訪問、面接の現地対応 ハネトレデイスカッション 「就職・大学院進学ガイダンス」 将来を見通した大学生活 ハネトレデイスカッション	「面接試験の心得(縦横面接)」 全10回(1日2回) (各回定員10名)						
1月	「各庁業務説明会(理工系対象)」							
2月		「面接試験の心得(縦横面接)」 全5回「就職活動の心構え」 全10回2月~3月実施予定	企業セミナー実施 (118社、全152社参加 予定、昨年度実績133社)					国立大学就職問題連絡協議会
3月	「国家公務員等採用試験説明会」		1~5、8~10、15~19、 22~24日					

訪問は盛んに行なわれている。「就職相談」は、週1回、半日だけ外部の専門家により実施する。

九州大学では、低年次で全学教育を行なう総合科目を実施しており、「社会と学問」（1年次のみ対象、2単位）が代表的である。この科目は、大学のOBの行政（中央官庁など）、司法（弁護士など）、教育（大学など）、マスコミ関係、映画監督など10名程度を招いて、総長の1コマと合わせてシリーズで実施するものである（総長の講演は6年前から）。学外講師は、東京等から呼ばれる。学生による質問、レポート作成、学生相互の意見交換が行なわれる。オリエンテーション・反省会もある。

その他、全学科目（総合科目）が10科目ほど設けられている。進路指導を特化した科目ではないので、今後、既存の科目の中に進路指導を組み込むことと進路指導科目の新設が検討されている。

3-2 キャリアセンターとキャリア科目（私立大学及び市立大学）

（1）龍谷大学

龍谷大学には大学全体のキャリア開発支援を行なう「キャリア開発部」が'04年4月から開始された。それを構成するものとして、「全学キャリア開発会議」がある。会議には学長、事務局長、副学長、各学部長、キャリア開発部長などが委員として参加する（学長が議長）。また「キャリア開発主任会議」があり、各学部のキャリア開発主任によって、キャリア開発支援を全学的に協議・調整を行なう。またキャリア開発科目やキャリア支援講座の企画・運営も実施する。これを定める「キャリア開発支援規定」があり、大学のキャリア開発支援を行なうことを目的としている。将来は組織として、「キャリア開発センター」とすることが希望されている。

学部のキャリア科目として、例えば「(特講) 日経・経営講座『わが社の事業展望(仮)』」、「メディアと業界実際論」などが設けられている。「わが社の事業展望」では、12人の企業トップを招聘して講義を頂く方式である。「メディアと業界実際論」は、毎回、異なるメディアや職務に従事する外部企業の講師が講義するもので、「わが社の事業展望」と同様に外部講師のオムニバス方式である。特に商学部教学課は、全学部の共通の部分を担当している。このように、キャリア開発部と各学部との連携が行なわれ、教員と事務系とのタイアップが実施されている。

また各学部には就職主任がおり、学生にメールを出して、その就職活動を援助するなどしている。

龍谷大学の「キャリアアップ・サポートシステム」は、キャリア開発部が担当する資格系、就職対策系、公務員試験対策をはじめ、他の組織が担当する語学系、資格・模擬試験、教員採用試験、諸規程、社会福祉士などを含んでいる（表3参照）。総合的にキャリアアップを進める態勢である。また、キャリア開発部では、学生を活用するという活動があり、2年生は「キャリアスタッフ」、4年生は「アドバイザー」という名称でアルバイトとして使っている（現在45名）。キャリアスタッフは企業の紹介配布物を作り、先輩に会社紹介を行なう。アドバイザーは3年生を指導する。さらにキャリア開発部は、1・2年生が講演を自主企画して、実施することも指導している。

インターンシップについては、学部において実施されており、単位化されている。商学部がインターンシップの代表窓口となり、京都大学コンソーシアムのインターンシップ紹介を利用している。各学部のインターンシップの委員会が担当し、就職と教育のリンケージを図っている。

表3 龍谷大学におけるキャリアサポート活動

<p>●語学系</p> <p>01 トラベル英会話講座</p> <p>02 TOEIC® 講座</p> <p>03 TOEFL® 講座</p> <p>●資格系</p> <p>04 社会保険労務士講座</p> <p>05 宅地建物取引主任者講座</p> <p>06 旅行業務取扱主任者講座</p> <p>07 2級FP技能士・AFP講座</p> <p>08 行政書士講座</p> <p>09 初級システムアドミニストレータ講座</p> <p>10 Microsoft Office Specialist 講座 (Excel・Word)旧MOUS [一般] 試験</p> <p>11 Microsoft Office Specialist [Expert] 講座 (Excel・Word)旧MOUS [上級] 試験</p> <p>12 基本情報技術者講座</p> <p>13 秘書技能検定講座〈準1級・2級対策〉(深草)</p> <p>14 秘書技能検定講座〈準1級・2級対策〉(瀬田)</p> <p>●就職対策系</p> <p>15 就職SPI試験対策講座</p> <p>16 文章力・表現力養成講座</p> <p>17 時事教養対策講座</p> <p>18 履歴書・エントリーシート・面接対策講座</p> <p>19 マスコミ就職対策講座</p>	<p>●公務員試験対策</p> <p>20 公務員講座 (深草)</p> <p>22 公務員講座 (瀬田)</p> <p>●資格・模擬試験</p> <p>24 TOEIC® IP</p> <p>25 TOEFL® ITP</p> <p>26 簿記検定試験</p> <p>27 秘書技能検定試験</p> <p>●教員採用試験</p> <p>28 教員採用試験対策講座 (深草)</p> <p>29 教員採用試験対策講座 (瀬田)</p> <p>●諸課程</p> <p>30 法職課程</p> <p>31 矯正・保護課程</p> <p>32 職業会計士課程</p> <p>33 開教使課程</p> <p>●社会福祉士</p> <p>34 社会福祉士国家試験対策講座</p>
---	--

(2) 立命館大学

立命館大学のキャリアセンターは、最も早くから設置された事例として著名である。総合力を持った人材の育成のために、1999年秋に「就職部」を「キャリアセンター」に名称変更し、またキャリアセンター内に「インターンシップオフィス」を設置している。

キャリアセンターの業務は、図2の通り、キャリア形成に関する科目の開講、低回生(1・2年生)支援プログラムから始まっている。インターンシップの窓口やエクステンション(資格取得など)も、キャリアセンターの業務に入っている。

キャリア教育の科目は各学部で行なわれており、「キャリア形成プログラム」として1-2年生を中心に実施されている。'03年度のキャリア形成科目は、表4の通りで、18科目あり、すべて各2単位となっている。中には全都道府県知事、中央省庁ゲスト、総領事、現役外交官、などのオムニバス方式の講義も含まれている。これらは、実社会への理解を深めたり、価値観と生き方を考えたり、働くことを社会・経済・雇用環境から考えて、将来のキャリア蓄積、人生の選択をする力を身に付けさせるために、キャリア形成を目指して行なわれている。

キャリアセンター内のインターンシップオフィスは、学生のインターンシップへの取り組みをサポートする専門部署で、単位認定されるプログラムや正課外のプログラムの紹介も行なっている。インターンシップの科目としての名称は、各学部(8学部すべて)によって異なるが、すべて2単位であ

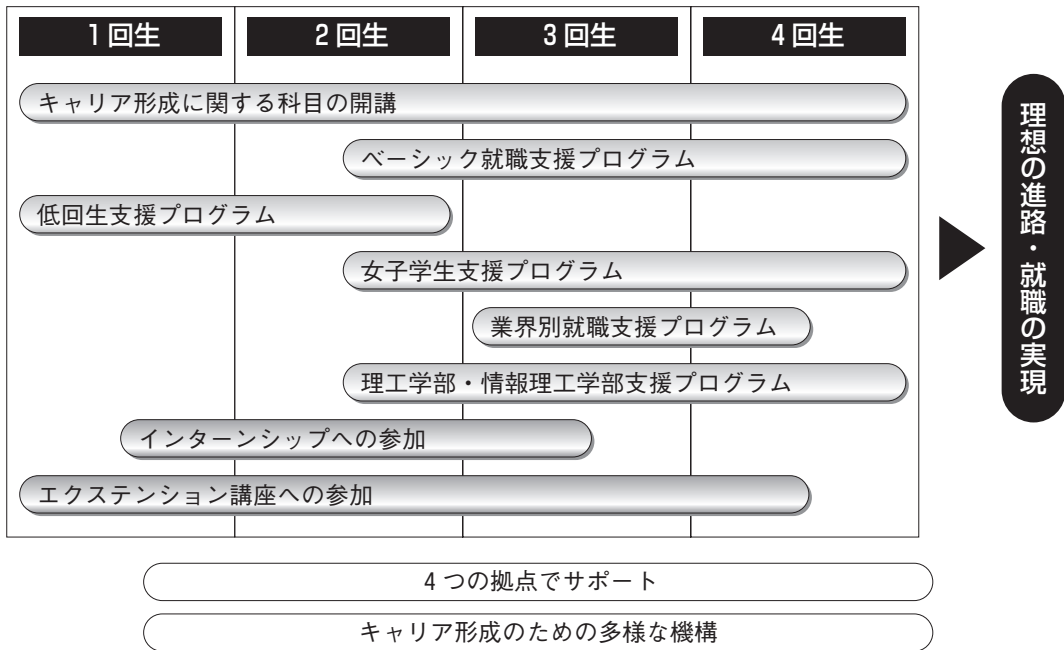


図2 立命館大学のキャリア形成

表4 立命館大学におけるキャリア科目

学部等	対象回生	科目名	備考
産業社会学部	1 回生配当	「キャリア探偵団」	・OBへのインタビューによる仕事理解
経営学部	1 回生以上	経営学特殊講義 「簿記入門Ⅰ・Ⅱ」	
全学部	2 回生以上	「全国知事リレー講義」	・2年間で全都道府県知事を招請（予定）
法学部 産業社会学部 国際関係学部 政策科学部 文学部	2 回生配当	「キャリア形成論」	・働くことを社会、経済、雇用環境の観点から理解し、自ら働き方を考える
経営学部	2 回生配当	「キャリア形成論」	
全学部	2 回生以上	経済学特殊講義 「現代社会における行政上の重要課題」	・中央省庁ゲストスピーカーによるリレー講義、 国Ⅰサポートプログラム・大学コンソーシアム で開講
政策科学部	2 回生以上	政策科学特殊講義 「人材開発論入門」	
経営学部	2 回生以上	公認会計士サポートプログラム	
国際関係学部	2 回生配当	特殊講義Ⅰ	・総領事14名による連続講義
法・国際合同開講	2 回生配当	特殊講義Ⅰ	・現役外交官8名による連続講演
国際インスティテュート	2 回生配当	「国際公務の現場と実践」	・現役国連職員による講義
国際インスティテュート	2 回生配当	国際公務フォーラムⅠ	・外務省、財務省、国際協力事業団から職員を招請

学部等	対象回生	科目名	備考
全学部	3回生配当	専門特殊講義「京都市行政論」	・現役行政マンによるリレー講義、地方公務員サポートプログラム・大学コンソーシアムで開講
産業社会学部	3回生配当	人間福祉特論Ⅰ	・福祉分野サポートプログラム
政策科学部	3回生以上	「人材開発」	
国際関係学部	3回生配当	企業研究	・工場見学やゲストスピーカーの講義
文理総合インスティテュート・経済	3回生配当	特殊講義Ⅲ「現代企業戦略研究」	・実務家や人事担当者による講義
国際インスティテュート	3回生配当	国際公務フォーラムⅡ	・外務省、財務省、国際協力事業団から職員を招聘

表5 立命館大学において単位が認定される正課インターンシップ〔2001年度実施例（一例）〕

実施学部	実施科目名	実施派遣企業等
法学部	法務実習プログラム「(各専攻)セミナーⅡ」	法律事務所
	法務実習司法書士プログラム「(各専攻)セミナーⅡ」	司法書士事務所
	公共政策実習プログラム「(各専攻)セミナーⅡ」	京都市消防局
		京都生活協同組合
		京都府八幡市役所
		京都府精華町役場
		岐阜県多治見市役所
産業社会学部	ボランティアコーディネータープログラム科目	京都市社会福祉協議会を通じた機関／団体等
	企画研究Ⅱ（インターンシップ）	岐阜新聞社
		ジェイディスク
国際関係学部	インターンシップ実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	エイベックス ディストリビュート
		財団法人 国際協力推進協会
		国際交流基金 関西国際センター
		財団法人 京都市国際交流協会
		フェデラルエクスプレスジャパン
		国際連合環境計画 国際環境技術センター
		国際協力事業団 大阪国際センター
		国際協力事業団 アメリカ合衆国事務所
		国際協力事業団 英国事務所
		ニュージーランド航空 大阪支店
		プリティッシュ・カウンシル
		デイリースポーツ社
		シー・エス・ビー・ジャパン（株）
		読売新聞大阪本社
		京都新聞社
産業経済新聞社		
国際開発ジャーナル社		
宇宙開発事業団		

実施学部	実施科目名	実施派遣企業等
政策科学部	政策科学特別実習	財団法人 太平洋人材交流センター
		財団法人 関西生産性本部
		京都府木津町役場
		京都府井手町役場
		財団法人 地球環境産業技術研究機構（RITE）
文学部	人文科学総合講座特殊講義Ⅰ	京都府井手町 関西テレビ放送 京都チャンネル
経済学部	プロジェクト研究	滋賀県中主町役場
経営学部	プロジェクト研究	電通 新日本監査法人
理工学部	特殊講義（基礎専門）Ⅰ・Ⅱ （インターンシップ）	「インディペンデント・スタディ型」のインターンシップとして、受入先については、学生自身がインターンシップオフィス等を通じて、選定・開拓する。
ファイナンス インステテュート	特殊講義Ⅱ	滋賀銀行
環境・デザイン インステテュート	特殊講義Ⅱ	地球デザインスクール 電通
サービス・マネジメント インステテュート	特殊講義Ⅱ	京都パープルサンガ ハウステンボス
国際インステテュート	海外スタディー	Muramoto Electron (Thailand) Public Co.,Ltd 読売新聞社調査研究本部

る。名称は表5のようになっている（これは'01年度の科目名の例である）。全学組織として、「全学インターンシップ教育推進委員会」があり、各学部教員が委員を務めている。

インターンシップ参加学生数は、'03年において1千名に達し、そのうち30名は海外インターンシップとなっている（海外インターンシップの場合、提携大学との間で行なうことが多い）。インターンシップ研修生は、「学研災インターンシップ保険」への加入を求められるが、保険料は学生が全額負担する（海外の場合も含めて）。インターンシップは長期での実施を目指しており、1セメをすべてインターンシップに使うことも構想されている。その際は半年、インターンシップに集中して、4年で卒業することが条件となる。

（3）中部大学

中部大学は、'02年に就職指導センターから改名して「キャリアセンター」を設置した。キャリアセンターは、専任職員スタッフの増員（3名増員）、キャリアカウンセラーの養成、カウンセリングルームの設置といった目標を持って設置されている（センター長以下11名。うちパート3名）。センターは各学部共通の機関であり、就職斡旋機能に加えて、低学年のうちから学生にキャリアに興味を持ってもらうことを意図している。

キャリア形成に関する講義の設置は要望しているが、まだ設置されていない。キャリアセンターは、教員に対して就職担当教員との面談・ミーティング、各学科の教育目標に基づくキャリア実践への支援、企業への同行訪問など企業との情報交換の実施を求めている。

キャリアカウンセラーは、教育訓練の外部講師を兼ねている。キャリアカウンセリングの利用者は増えてきているが、メンタルな相談は、学生相談室に委ねている。

インターンシップは教務課で担当しており、キャリアセンターはインターン受け入れ先の開拓を担

当している。科目「インターンシップ」（2単位）は、4年前から単位化を始めて、'04年度から全学部で単位となる。大学統一で「インターンシップ委員会」を設置しており、各学部2-3名の教員のチームで構成されている。

就職指導については、「就職指導委員会」があり、各学部教員で構成されている。学科ごとに就職委員会があり、各学科のキャリア教育の立ち上げを考えている。

ライセンス関係では、別にエクステンションセンターがあり、ここでは資格取得、オープンキャンパス、市町村との協働等を担当している。

（4）広島市立大学

広島市立大学は3学部（国際、芸術、情報）で構成されているが、各学科から進路指導委員が1名ずつ設けられている。

芸術学部では進路指導でなく、自立の第一歩として創作活動ができるキャリア形成を目指すよう指導している（自立キャリアの確立）。また国際学部では企業出身教員が多く、そのため教員推薦主体の就職活動が行なわれている。

登録カードに基づいて、芸術学部を除く学生全員と1人30-60分ずつの面談を実施しており、効果が大きい。

また'03年には、卒業生全員を対象に「就職・離職・転職実態調査」を実施した。このOB情報を入学推薦に用いる。

（5）広島修道大学

就職課の役割として、企業出身の教員との二人三脚で現在の企業が求めるニーズを学内にフィードバックすることに意を用いている。学生との個別相談は、一人60分程度かけてきめ細かく実施する。個別相談の結果は、担当の教員にフィードバックされ、教育の一環として進路指導を位置付けている。

教員の社会に目を開いた教育のあり方について、就職課が情報発信することを重視している。そのため教員対象の研修会を年1-2回実施している。

また東京で開催される企業説明会に参加するため、学生が主体となって旅行会社と契約して実施する自主サークルがある。就職課がこの活動を積極的に援助している。

（6）福岡大学

福岡大学は9学部あり、同じキャンパスになってから5年目である。

共通科目として「キャリアプランニング」（後期、2単位）があり、教員がコーディネーターになり学内外の有識者を招いて、オムニバス方式で、全学1年生を対象に実施している（これまで3回開催）。これは「総合系列科目（総合科目）」に属しており、総合科目にはその他、「基礎的情報学」、「人間生活と地球環境」、「環境の科学と社会」などの科目が多く設けられている。その他、各学部において設けられている科目で、内容的にキャリア科目的なものもある（キャリア教育として明確には位置付けられていない）。学部によっては小人数のゼミナールを1・2年生で行なっている。

就職・進路支援センターでは、'04年度からキャリア教育として、1年生対象に「キャリアデザイン養成講座」を4回（月1回）実施する。外部の取り扱う会社に依頼して実施する。また夏には1・2年生の低学年に向けて「進路ガイダンス」として、本学OBを招き、話をしてもらう会合がある。OBは50-60歳の社長編、マスコミ関係の若手編があり、学生の希望により人を選んでいる。

「就職・進路支援センター」は、'99年に設けられた。就職は大学全体として取り組むことが重要課題であるため、センター長を教員にした。学部ごとの独自性を持たせながら大学全体の就職意識を高

めるためのキーワードを「キャリア教育」と考え、「キャリア教育の調整」で横軸を入れた。センター長、センター長補佐（2名）は教員（兼任）である（センター長は文系と理系で2年交代）。

教員から成る運営委員会があり、メンバーとして各学部（9学部）には1名ずつのセンター委員（教員）がいる。また学部に独立性を持たせ、キャリアを意識した教育を行なうために、センターの運営委員会で決めたことを学部の委員に広報と実施を委嘱する「キャリア教育調整委員」（学部教育と就職との橋渡し役）が各学部数名ずついる（調整委員の委員会はない）。センター委員の任期は2年である。

センター委員の仕事の1つとして、1人20社の会社訪問を行ない、新規開拓している。旅費、日当をつけて、関東地区に2-3月に行っており、その結果は「会社訪問レポート」として報告書が提出される。センターには東京事務所があり、OBで企業出身の非常勤の臨時職員が1名いる。

インターンシップは、センターで行なっており、福岡県インターンシップ推進協議会による斡旋の利用や独自開拓を実施している（会社数で協議会の斡旋が3、独自開拓が7の比率）。経済学部では、全学年対象で単位化されており、科目「インターンシップ」がある。法学部、商学部でも単位化の検討中である。経済学部の学生はセンターの紹介でインターンシップに行き、翌年度に学部申請して、科目を履修できる。科目登録に当たっては、8千字以上の報告書の提出を受け、審査を行なう（受け入れ企業からの評価は考慮外）。

インターンシップに似た科目として、工学部社会工学デザイン科の「実習」、薬学部の「病院実習」、スポーツ科学部の「実習」等がある。

進路の決まった学生が登録の上、センターに2ヵ月ほど常駐し、日替わりで学生の就職相談を行なっている。これらの学生を中心に模擬面接を行なった（好評である）。

4 まとめ

各大学の特徴を検討して、これからのキャリア教育の必要性が痛感された。特徴ある方式（制度）として、以下のものがあげられる。大学名は例えば、としてあげている。

- (1) 教員と職員を一体化したキャリア組織 - 広島大学（専任教員）、福岡大学
- (2) キャリア科目の豊富な設置 - 立命館大学
- (3) 豊富なキャリアアップサポートシステム - 龍谷大学
- (4) 学生総合相談の全学的集約 - 名古屋大学
- (5) オムニバス方式キャリア科目 - 九州大学、立命館大学
- (6) キャリア教育における学生の活用 - 龍谷大学
- (7) キャリア教育調整委員の設置 - 福岡大学
- (8) インターンシップの大規模な実施 - 立命館大学
- (9) 学生との丁寧な面談 - 広島市立大学、広島修道大学
- (10) 教務課でのインターンシップ実施 - 中部大学、広島大学（'03年度まで）

これらのシステムを参考にこれからどのように導入する体系を作ればよいか、今後検討することとしたい。

最後に、今回のインタビュー調査にご協力を賜りました各大学の担当者及び研究者各位に厚く御礼を申し上げる次第である。公表をすることを許された内容についてまとめることができたのは、各大学インタビュー先の方々のご好意によるものである。

備 考

本調査は、三木 佳光教授の2003年度国際学部共同研究「大学生のキャリア形成と起業家精神の育成の調査」に沿って実施されたものである。

以 上

